

**MOVE the NEXT** .....動かす。次代。広げる。未来。>

# JIMHニュース

第13号

巻頭言

第16回定時総会

2024年度事業計画

機種別部会・合同見学会

機種別部会・全体勉強会

第10回WMHA 4極会議開催報告

新入会員企業紹介／各種告知

## 巻頭言

# 異例の猛暑でも安全優先の現場を グローバルな活動の広がりにも期待

皆様、ご健勝のことと存じ上げます。JIMHニュース第13号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

暑い日が続いております。昨年は過去最も暑い夏と記録されましたが、この夏も異例の猛暑となるようです。皆様も熱中症対策を心がけ、健康に留意していただきたいと思います。特に工事などに従事される方々は、とにかく万全な対策、安全を優先して事故のない現場を護持していただけるようお願いいたします。

先般5月29日、当協会は第16回定時総会、第64回理事会に加えて懇親会を開催し、無事終了しました。内容につきましては、本誌面にて紹介されていますので、振り返りとしてご一読いただければと思います。懇親会では、ご臨席いただいた経済産業省の川内課長補佐から、同省としては企業の省力化やDXに向けた設備投資を力強く後押しする方針であること、また国土交通省の平澤課長からは、2024年問題は一過性のものでなく構造的な課題、継続的に取り組む必要がある。物流の持続的成長が社会の持続的成長につながる、との話があり、当協会および当業界に対してのご期待・ご声援の言葉と受け止め、皆様とともにマテハン業界の発展に力を注いでいきたいと思っております。

## タイのProPak Asia 視察、会員現法訪問も

さて、今年度も第1四半期を終えましたが、当協会の事業計画は着実に取り組まれており各委員会・部会メンバーの皆様には感謝申し上げます。特にグローバル部会の活動ではタイでのProPak Asia 2024の視察および会員企業様現地法人の訪問、教育・研修部会では物流人材育成支援などが報告されています。グローバルの面でも、これまで以上に活動が広がることを期待しています。年度後半では、9月からは「マテハン塾」がスタートします。今年度も多くの若い人に参加いただけるよう。日本で唯一となるマテハン講座を通じて、必要な専門知識や



一般社団法人 日本物流システム機器協会  
会長 下代 博

ノウハウを広く取得していただき「マテハン管理士」として活躍されること、また、自社以外の人との交流を通じて人的ネットワークの構築に活用されることを願っています。

国際物流総合展も大きな活動の一つです。今回は出展者申し込み期間中にもかかわらずキャンセル待ちが出ていたとのこと、締め切り時点では計画を超える規模(532社・団体/3,220小間)となったようです。当協会からも44社の会員企業が出展されると聞いております、物流ソリューションに対する来場者の期待も高いと思われるので、各社の強みを生かしたシステム・機器の提案を行い、来場者にアピールしていただきたいと思っております。

私たちが取り扱う物流システム機器は、近年、物流を取り巻く環境が大きく変化し、自動化・省力化により人手不足解消や生産性向上に寄与する重要な社会インフラとして位置付けられるようになりました。

そうした中、物流の2024年問題への対応として、荷主企業、物流事業者においては共同化や協業化への取り組みなどの動きがありますが、我々としては、物流業務の効率化や生産性向上などはもとより、トラックの荷待ち時間の解消策や新たに設置される中継拠点へのソリューション提案などに力を注ぐ必要があります。そしてそれは、継続的に続く労働力不足という社会課題の解決に直結していくものだと考えています。

その提供を担う各社の皆様が今後、さらに事業を通じてSDGsの達成、持続可能な社会の実現に向けて貢献できるよう、当協会はこれからも力を注いでまいります。皆様にも変わらぬご協力を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

以上

## 第16回定時総会

# 明治記念館に会場を移し開催 2024年度の事業計画案を承認

## 下代会長が議長に選任され議事を進行

5月29日(水)、明治記念館(東京都港区)において、第16回定時総会を開催しました。

総会は冒頭、横田専務理事・事務局長が登壇し、定足数確認で正会員55社中、議決権行使を含めた50社の出席で出席者数が過半数を超えていることから、総会の成立を確認された後、定款14条に基づき協会の下代会長を議長として議事が開始されました。

選任された下代議長は挨拶の後、定款により第16回定時総会の開会を宣言、議案審議に移りました。



議事進行にあたる下代議長

## 2023年度事業報告、2024年度事業計画を審議

■第1号議案：『2023年度事業報告書および収支決算報告に関する件』については、事務局より、2023年度の事業報告、各部会・委員会活動について説明がなされ、続いて収支決算報告書の貸借対照表、収支決算書の内容説明がなされました。

また、監事作成の監査結果について監事を代表して岡本雅文監事より、適法かつ正確に処理されていることを認めた旨の報告がなされ、続いて決算証明書について、外部監査として顧問税理士廣野喜美子先生より、監査結果が適法かつ正確であることの報告がなされ、拍手をもって異議なく承認されました。

■第2号議案：『2024年度事業計画書(案)および収支予算(案)に関する件』については、事務局より、



2024年度事業計画書(案)について説明がなされ、理事会・運営幹事会の開催計画、2025年新年賀詞交歓会の開催計画、会員企業勉強会・施設見学会の開催経過の他、定例勉強会、行政施策に関わる勉強会、教育研修事業等について例年通りの開催を計画している旨、展示会事業では9月開催予定の国際物流総合展2024への出展計画の説明等に続き、国内関連機関・団体との交流および協力に関して、経済産業省商務・サービスグループ物流企画室からの「タイ物流システム機器人材育成支援事業」に係る協力要請についての対応、さらには経済産業省製造産業局産業機械課経由、中小企業庁の「中小企業省力化投資補助事業」について協会として登録対象となるMH機器に係り企業からの申請に対し承認審議および証明書発行業務を担う対応について紹介されました。

続いて2024年度収支予算(案)について説明がなされ、拍手をもって異議なく承認されました。

■第3号議案：『理事の任期満了に伴う改選および新任理事の選任に関する件』については、事務局より、総会終結時において監事2名が任期満了となることを受け、両名に再任の承認を求めるとの提案がなされ、拍手により異議なく承認されました。

\*

当日の議案審議案件が終了した後、事務局より新規入会、退会および代表者変更についての報告があり、定時総会の全プログラムが終了となりました。



議事進行中の総会の様子

# 業績堅調な推移の中で2024年を迎え、 業界一丸で高度な自動化・省力化の提案を加速



## 総会后、景観の素晴らしい蓬菜の間で和やかな宴

5月29日(水)、明治記念館(東京都千代田区)において開催された第16回定時総会(p2参照)のプログラム終了後、別室にて行われた第68回理事会に続き、懇親会が催されました。懇親会では冒頭、代表理事の下代博会長が登壇し、以下の要旨で挨拶されました。

「今年2024年は能登半島地震という大災害で幕を開けることになりましたが、被災された方々に心からお見舞い申し上げますと共に被災地の一日も早い復興をお祈り致します。景気面では大手企業をはじめとして2024年3月期の業績



JIMH下代会長

は堅調に推移し、日経平均株価も今年1月には33年振りに最高値を更新、3月には4万円を超えています。物価高が続く中、政府の指導もあって賃上げに取り組む企業も多い一方、まだまだ物価の上昇には追いついてはならず、より一層の取り組みが必要だと思えます。

また、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻が長期化しているほか、イスラエルのガザ地区への侵攻も人道面から大きな問題となっています。経済面では中国経済の減速と、今後のアメリカの金利動向による景気への影響はどうか、先行きが見通せない状況です。

そうした中で当協会は先ほど第16回の定時総会、第68回理事会を無事に終了しました。総会では昨年度の事業報告と今年度の事業計画が審議の上で承認され、各部会委員会に於いては本格的にコロナ禍を脱出したことから活発な活動実績が報告されています。さらに今年度の事業計画では一層の拡充が図られ、協会一丸となって取り組んで参ります。

物流システム機器各社におかれましては、荷主、運送事業者、ドライバーが共存していけるためにより高

度な自動化、省力化ソリューションの提案、提供にスピード感を持って取り組んでいただき、CO<sub>2</sub>削減等の大きな課題に対しても、取り組みを加速していただけるよう期待しています。

社会へ、またお客様企業へ、新たな物流価値を創出していくことが期待される物流システム機器業界ですが、その期待に応じるため、JIMHはこれからも業界界への貢献と当協会の発展を目指し、たゆまぬ努力を続けて参ります」

\*

続く来賓代表祝辞では、経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐の川内拓行氏が登壇し、以下の要旨で挨拶しました。

「日本経済は、この数年の政策と業界の皆様のご努力の成果により、長年続いたデフレ構造から新しい経済のステージへ移行する千載一遇のチャンスを迎えています。下代会長のお話の通り、日経平均株価が史上最高値更新し2年連続で企業の賃上げも加速、今年の春闘、第5回目の集計では5%を超える5.17%の賃上げが示されました。昨年には30年振りとなる100兆円規模の民間企業様の設備投資が実現し、今後も高い水準での投資が見込まれています。



経済産業省  
川内課長補佐

経団連も2027年度に名目で115兆円の目標を掲げ、好循環の流れがうまくつながっています。政府としては、年末に国内投資を強力に後押しするためのパッケージを取りまとめ、[大規模][長期][計画的]に取り組む経済産業政策の新機軸として強力に推し進めます。具体的には、国内投資をいかに促進するか、社会課題解決分野に戦略的に投資して行きます。

物流システム機器には、新しいユーザーニーズの変化に伴って自動化の需要が高まっており、さらに物流

現場でのデジタル化を加速させる担い手としても期待されています。経産省としては、このような諸課題に対して中小企業省力化投資補助事業、いわゆるカタログ補助金や物流効率化に向けた先進的な実証事業といったメニューを取り揃え、企業の省力化やDXに向けた設備投資を力強く後押しする方針です。とりわけJIMH様にはカタログ作成、登録という形でご協力をいただいております点、この場を借りて御礼申し上げます。」

続けて、国土交通省 物流・自動車局 物流政策課課長の平澤崇裕氏が登壇し、挨拶されました。

「物流は国民生活経済を支える重要な社会インフラですが、様々な課題に直面しています。とりわけこの4月から始まっているのが、物流産業を魅力あるものとするためトラックドライバーの時間外労働規制が始まったことに端を発した、マスコミでも報道の通り物流の2024年問題であり、この問題への対応が我が国の喫緊の課題です。



国土交通省  
平澤課長

こうした認識から昨年3月に関係閣僚会議を立ち上げ、6月には商慣行の見直し、物流の効率化、荷主消費者の行動変容を軸に据えた政策パッケージをとりまとめました。特に物流の効率化については昨年10月に緊急革新パッケージを取りまとめ、実行に必要な予算も確保して政府全体で執行している状況です。

財政的措置だけでなく構造的な対策、特に商慣習の見直しについては構造的な対策が必要なため、荷主、物流事業者と物流改善に取り組んでいただくことを義務付ける法案が今国会で、4月に成立しています。

2024年問題といいますが、年々深刻化して行く構造的な課題で、継続的に取り組む必要があるもので、2024は終わりではなく始まりです。従って法案審議の時も齋藤大臣の説明において2024年も、物流革新元年としたいと、説明いただきました。つまり物流の効率化を進め、社会の生産性向上させる、物流の持続的成長が社会の持続的成長に繋げていくということ、そういった思いを胸に、皆さんと一丸となって全力で取り組んで行くところです。皆様にかれまして引き続きのご理解ご協力をお願いします」

## 新入会員挨拶に続いて恒例の右肩上がり乾杯

来賓代表の祝辞に続いて新入会員紹介があり、前年の第15回定時総会以降に入会された企業5社のうち当日会場に参加した正会員のオートストアシステム(株)、賛助会員の第一産業(株)、コグネックス(株)、(株)ROMSの4社の代表が順に挨拶で登壇したの続き、乾杯の発声で協会の大庫良一副会長が登壇しました。

「乾杯担当副会長の大庫です(笑)。今年とはとても乾杯づいており、実は先週も下代会長と一緒に参加した席で乾杯の挨拶をしたばかりです。



JIMH大庫副会長

それにしても今日は大変気持ちのいい乾杯が出来そうな雰囲気の開場です。先の本曜日から台湾出張に行ってきたのでその出張報告でもと思いましたが、皆さん早くビールを飲みたいでしょうから、早速恒例の右肩上がり乾杯に移ります。初めての方のために基本的な説明させていただきますと、肩幅よりちょっと広めに足を開いて左手を腰に当て、ちょっと左に首を傾けると右肩が上がりますよね、もし上がらない人は整形外科へ行ってください(笑)。今年度も当協会参加企業のますます隆盛、皆様の会社の社員がご健勝で活躍されることを願ひまして、全ての数字が右肩上がりとなるように、乾杯!!」

\*

和やかな歓談の時間はあっという間に過ぎ、中締め

の時間となり、協会の村田大介副会長が登壇しました。

「中締め担当者としてクレンジンド五本締めで締めさせていただきます。そのコンセプトは大庫副会長と同じく右肩上がりなのですが、これははじめに人差し指一本で、次に中指も加えてと3本4本と増やして行くもので、このやり方のメリットは通常の5倍時間がかかるために、つまらない挨拶が省けることです(笑)。それでは皆様の益々のご健勝を祈念して、お手を拝借！」



JIMH村田副会長

ユニークな五本締めで会は中締めを迎え、その後、懇親会は無事終了となりました。

## 2024年度事業計画

# 行政施策、会員企業各種勉強会から展示会事業推進 グローバルは4極会議に加え、タイとの交流充実も

### 2024年度事業計画に基づく活動計画概要

事業関係(大会、講演会、展示会、研究・研修会 他)

- (1) 新年賀詞交歓会の開催……2025年1月21日(火)12:00～13:30 於：明治記念館
- (2) 会員企業勉強会や施設見学会の開催(機種別委員会企画)……2024年度も設備系委員会と情報系委員会との2委員会体制とし、WEB併催にて会員企業勉強会や施設見学会等の開催を企画。
- (3) 定例勉強会の開催(機種別部会全体会議時に開催)……6回/年開催予定。
- (4) 行政施策に関する勉強会の開催……2024年度国家予算事業でJIMHに関係する事業があれば行政に働きかけ、勉強会等を開催し会員へ周知。
- (5) 教育・研修事業……2024年度も「マテハン塾」を開催し併せて東京・大阪にて短期集中セミナー開催。
- (6) 展示会事業……国際物流総合展 2024 (2024年9月10日(火)～13日(金)4日間開催)に出展。その他、業界関連団体が主催する展示会、イベントなどに情報交流の一環として先方依頼に基づき協賛・後援。
- (7) 海外交流……グローバル部会にて海外交流を推進。
- (8) 国内関連機関・団体との交流及び協力……経済産業省、国土交通省等の行政施策への支援と参画を推進。
- (9) 情報・資料・出版物の提供……2024年度もJIMH広報誌「JIMHニュース」を3回/年度発刊。

#### 部会・委員会関係

- (1) 運営幹事会【石山幹事長】……物流システム機器業界が抱える共通の課題を解決するため各部会・委員会ならびに行政、他団体と連携し戦略・戦術を企画・立案推進。
- (2) グローバル部会【今村部会長】……FEMがホストとして開催の「第10回WMHA(4極会議)」は、5月23日(木)日本時間20時から22時WEB開催。タイとの交流およびタイに於ける展示会開催等に関し実

施効果や時期など具体的に協議。

- (3) 技術部会【山下部会長】……先端技術情報の収集を目的に、ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)、TC-315国内委員会等に出席。
- (4) 機種別部会 全体会議【原田部会長】……機種別部会では運営幹事会や部会・委員会活動報告後、行政外郭団体や業界オピニオンリーダーを招き全体勉強会を計画。
- (5) 統計部会【石山部会長】……2024年度も公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)と協力のうへ「2023年度物流システム機器生産出荷統計」ならびに「2024年度物流システム機器受注調査レポート」を取り纏めて発行。
- (6) 教育・研修部会「マテハン塾」【藤井部会長】……第14期マテハン塾を継続実施。
- (7) 広報委員会【西山委員長】……JIMH広報誌の企画、編集、発行、JIMHの国内外の活動を、会員企業の皆様にタイムリーかつ確実・正確に伝えるツールとしてJIMH広報誌「JIMHニュース」を年3回発刊。
- (8) 設備系委員会【小田部委員長】……会員企業様の製品紹介、工場・物流施設見学会&研修会の企画・実施。
- (9) 情報系委員会【立川委員長】……会員企業様の製品紹介、工場・物流施設見学会&研修会の企画・実施。
- (10) 展示会事業推進委員会【芦内委員長】……JIMHの新たな収益事業として、また会員企業様へのサービス提供の一環として、引き続き日刊工業新聞社との連携とロボット工業会様の協力も仰ぎ、2025年開催予定の「2025国際ロボット展」併催企画「ゾーン」出展を計画。
- (11) 建設業法対策ワーキンググループ(WG)【渡会グループ長】……建設業法の各種緩和措置等について、国土交通省 建設業課へ引き続きフォロー、四半期毎を目途として国土交通省の動向、建設業法に係る情報を逐次情報共有。

## 機種別部会 合同見学会

# 化粧品通販の雄オルビスの流通センターで AGV、AMRの最新運用事例を見学



### EC向け店舗向け異なる出荷ラインを設置

3月1日(金)、機種別委員会の企業見学会が、オルビス(株)の東日本流通センター(株流通サービス騎西物流センター)において開催されました。

見学会は冒頭、同センターへMH機器を納入した(株)椿本チェーンの北村隆之氏(現：(株)Nexa Ware 出向)が、以下の要旨で挨拶しました。

「本日見学いただくオルビスの現場では、EC向けに稼働するAGVと、店舗向けに稼働する重量計付きAMRの、大きく二つのエリアで構成されます。

まず、EC向けのB2C物流を取り扱うAGV出荷ラインでは、T-Carry Systemと銘打ちAGV330台を同時稼働させるシステムを運用しています。同エリアでは、ピッキングと検査、出荷、の3つの工程で稼働しています。

もう一つが、店舗向けB2Bの出荷ラインで、こちらでは20台のAMRと重量計を組み合わせたピッキングシステムを運用しています」

センター全体の基本的な説明の後、全体を2班に分けて現場見学がスタートしました。

EC出荷エリアでは、330台のリピアオ社製AGVが同時にフル稼働のT-Carry Systemを一望できる見学ステージ上で詳細の解説が行われました。一般的なソータシステムに比べ、走行作動音が小さく、フル稼



EC出荷エリアのT-Carry System

働しても現場のノイズが極めて小さいことが体感出来ました。

1周約100mの架台上を走り回るAGVは1台に1オーダーが割り付けられる仕組みとなります。例えば注文品が全22か所のピッキングゾーンのA、B、Dの3ゾーンに格納されている場合、AGVはまずAゾーンへ走行しピッカーが投入、次にBゾーンへ自走し、最後にDゾーンでオーダーが完成となります。受注が集中してBゾーンが渋滞していた場合は、一旦スキップしてDゾーンへ向かうことで、作業者の負荷を平準化する仕組みとしています。

アイランドピッキング方式に近い運用で、搬送をコンベヤではなくAGVが担っているイメージです。



店舗向け出荷エリアのAMR+重量計カート

続いて訪れたのが、店舗向けB2Bの出荷エリアです。当日は作業終了していましたが、ここではForwardX社製のAMRに寺岡精工製の4種重量計カートを組み合わせたソリューションが稼働しています。従来の手動カート時代には20人ほどの作業者がピッキングをしていたものが、セルフ充電機能も備えたAMRによる新システムでは11人と、従来比約半分の人員でまかなえるように効率化されたとの事です。

\*

見学後には改めて質疑応答で全プログラムを終了し、送迎バスで移動後、解散となりました。

## 第6回 機種別部会・全体勉強会

# 補正予算と次年度当初予算で1,200億円規模に 2024年が物流革新元年となるよう行政も全力



### 物流脱炭素化促進事業、物流標準化促進事業も

第6回機種別部会・委員会が3月14日(木)に銀座ユニーク貸会議室(東京都中央区)にて開催されました。冒頭、横田専務理事より各種報告事項についてアナウンスされた後、全体勉強会に移りました。今回の全体勉強会のテーマは「2024年『物流革新元年』に」で、国土交通省 物流・自動車局 物流政策課 物流効率化調査官 笹口朋亮氏が登壇、以下の要旨で講演されました。

\*

「輸送モード別に見た我が国の貨物輸送量の現状は、コロナ禍で一時期落ち込んだものの、例年ほぼ横ばいで推移していますが、その内訳を見ると、自動車つまりトラック輸送が大半を占めており、そのドライバーは多くの深刻な課題に直面しています。労働時間は



国土交通省・笹口調査官の講演の様子

全産業平均と比べ2割長い一方、年間所得はむしろ一割低く、結果的に有効求人倍率は2倍近い値、で慢性的な人手不足に陥っています。

こうした2024年問題解決のために昨年3月、我が国の物流革新に関する関係閣僚会議が開かれ、岸田首相の指示を受けて昨年6月の第2回関係閣僚会議で策定したのが「政策パッケージ」です。同パッケージではその解決のための具体的な施策として、(1)商慣行の見直し、(2)物流の効率化、(3)荷主・消費者の行動変容、の3本の柱で取り組む方針が示され、これを中心に経産・農水・国交の各省の施策をパッケージ内で構成していくこととしました。

さらにその後9月、岸田首相と中小トラック事業者との車座対話での輸送実務現場からの本音の課題提起を受け、これに対応すべく10月に第3回関係閣僚会

議開いて物流革新緊急パッケージが策定されました。

これをベースに令和5年度の補正予算案が起草され、一般会計331億円、特別会計409億円、財政投融資200億円と、例年に比べけた違いの物流関係予算が実現しています。これを来年度当初予算と合計すると実数で1,200億円規模に上ります。

こうした予算措置を背景に実現した補助金等について、代表的なものをご紹介しますと、まず物流・自動車局の物流関連予算では“物流施設におけるDX推進実証事業”が上げられます。これは物流施設を保有する物流関係事業者のシステム構築、連携そして自動化・機械化に向けてそれら機器を同時に導入する場合に費用の約1/2を支援するもので、専門家によるシステム導入に関する伴走支援も同時に行い、ハード&ソフトの両面から物流DXを進めて行く、実証事業です。

また“物流脱炭素化促進事業”、これは太陽光パネル等の再生エネルギーを創る、そして蓄電池あるいはエネルギーマネジメントシステムで溜める、最後にそれを予約受付システムやAGV等の機器が使う、この“創る・溜める・使う”を同時に行う物流事業者に対して補助するスキームで、DXと同時にGXを進める事業者を支援し、クリーンな物流を構築していく事業です。

この他、58億円規模で予算投入される“モーダルシフト加速化緊急対策事業”、“中小トラック運送事業者の労働生産性向上に向けたテールゲートリフト等導入支援事業”標準仕様パレットT11型の利用促進と並行してレンタルパレットの導入促進を支援する事業等を含む“物流標準化促進事業”等の幅広い財政的措置や、今、国会に提出している規制措置とを併せ、様々な角度から取り組むことで、2024年が物流革新元年となるよう、物流の革新に邁進していく所存です。」

\*

勉強会終了後は休憩を挟み、機種別委員会での会員企業紹介を経て順次閉会、解散となりました。

## 第1回 機種別部会・全体勉強会

# 我が国物流不動産プロバイダが目指す 次世代施設の在り方Techrumとは



### 従来デベロッパーの域を超えた取り組みを加速

2024年度の第1回機種別部会・委員会が5月16日(木)にAP東京八重洲(東京都中央区)にて開催されました。冒頭、横田専務理事より各種報告事項についてアナウンスされた後、全体勉強会に移りました。今回の全体勉強会のテーマは「野村不動産が考える『次世代物流施設』の姿」で、野村不動産(株)都市開発第二事業本部 物流事業部 事業企画課 課長の藤崎潤氏が登壇、以下の要旨で講演されました。

\*

「皆さんは野村不動産のLandportと聞いても、普段あまり意識されていないとは思いますが、デベロッパー各社がそれぞれのブランド名で不動産施設を展開しているけれど、実際に何がどう違うのでしょうか。

今期の野村不動産の物流事業部は、以下のようにビジョンとミッションを新たに打ち出しました。

【ビジョン】最も愛されるロジスティクスの変革パートナーになる

【ミッション】全てのステークホルダーと共にデベロッパーの枠を超えたまだ見ぬ価値を創造し続けます

これは当社が不動産から物流業界のプレイヤーへ転換することを意味しており、従来デベロッパーは建物、つまりロジスティクス機能としては保管のみを提供してきたのに対して、物流革新の時代に+ a (作業・配送)の領域に踏み込む必要がある認識の表明です。

抜本的に物流のコスト構成を考えた場合、一般的にその8割はオペレーションに関わるものであり、そこで我々に何が出来るかについて探っているのですが、その際、前職で私自身が長く赴任していた欧州と比較して日本と一番異なるのは標準化の考え方だと痛感しています。日本では顧客毎に個々にWMSをカスタマイズするのが一般的ですが、その煩雑な手間が事業の立ち上げスピードを非常に低下させているからです。

最初に欧州に赴任した2004年当時、6か国にまたがる50の荷主すべてがたった一つのWMSで運用されていました。それは標準化のために各プレイヤーが様々な部分で妥協・協調していたからです。対して日本では帳票の僅かな違いにも妥協できなくなると、このままではこの国の物流は立ち行かなくなるだろうと、当時から感じていました。

さて、野村不動産の考える標準化ですが、今、建物に関しては誰でも使えるマルチテナント型とBTSつまり特定顧客向け完全カスタマイズ型の二種類に大別されると思います。そこで当社はその中間にもう一つの選択肢として、カテゴリ緩く決めある程度の顧客満足に向け使いやすい仕様に対応するカテゴリマルチ型コンセプトを掲げ、既に6棟の実績を重ねて来ました。

最後にここ数年の取り組みについて2つご紹介します。はじめにTechrum、これは物流自動化の課題を抱える企業の「選択肢が多すぎてどれが最適かわからない」「自社に有効な解決策を見つけるだけでも大変」「じっくり検討する時間も場所もない」等々の具体的なハードルへの課題解決アプローチとして、荷主・物流企業の課題解決に取り組む、いわば共創型のプログラムです。

もう一つがLandport横浜杉田です。横浜港にも高速ICにも近く、配送面でも消費地に近い好立地で、IHI社の協力で導入された立体自動倉庫が標準装備、テナント間でシェアリングできる体制が特徴です。その他様々な自動化機器のシェアリング、在庫最適配置システム等も利用可能で、もちろん野村不動産のTechrumも利用可能、オープンシェア型物流拠点を謳って、市民・地域に共生して近い存在となるべく、物流施設見学はじめ様々なアプローチを続けています」

\*

質疑応答の後に勉強会は終了、機種別委員会での会員企業講演を経て当日は閉会、解散となりました。

# 日・米・欧・中から経済状況、マーケットトレンド MH機器の統計データ、規格改訂等を発表

## 5月23日(木)にWEB会議形式で開催

去る5月23日(木)、日本時間20:00～21:40にて、欧州マテリアルハンドリング連盟 (FEM) 主催による、第10回WMHA4極会議がWEB会議形式で開催されました。

当日は、各極より経済状況とマーケット・トレンドおよび、マテリアルハンドリング機器の統計データ、規格改訂等についての発表がありました。

各極の発表資料については、これまで同様に日英併記の上、当協会会員専用ページ「グローバル部会」に掲載させていただいております。

会員窓口責任者の皆様宛には掲載当日、メールにてご案内させていただいておりますが、改めて会報誌においてもご案内させていただきます。

◆会員専用ページURL：<https://www.jimh.or.jp/mypage/>



## 2024年度『第14期マテハン塾』受講生募集中！

### ◆国内唯一のマテハン専門講座

【マテハンシステム管理士1種・2種(※1)】の資格取得が可能

### ◆目的と対象者

第一線で活躍できる人材の育成、マテハンシステム管理士の養成

- マテハンの機能をフルに活用した物流センターの企画・構築・提案ができる人材を育成します。
- 物流センター構築の企画・提案を業務とする、営業およびエンジニアの方、マテハンの商品開発、市場開発を目指す方
- マテハン製品を拡販するためにマテハンのスキルを高めたい方、物流センターを運営される方で、マテハン技術を身につけたい方

(※1) 当協会 (JIMH) 認定の民間資格です

本講座	通期コース	<b>72時間以上【総合学習、実践スキルアップ】</b> 座学の他、施設見学、グループワーキングなどを通じて、マテハンシステム管理士1種取得を目指します。
	前期コース	<b>30時間【マテハン機器のハード、ソフトと運用学習】</b> 座学を中心に、マテハン機器のハード、ソフト、運用について幅広く学習し、修了時にはマテハンシステム管理士補の資格(2種受験資格)の認定が受けられます。マテハンシステム管理士2種の試験合格を目指します。
	後期コース	<b>42時間以上【マテハンシステムの分析、計画、提案実践スキルアップ】</b> 原則として前期コース修了者およびマテハンシステム管理士2種資格者が受講対象になります。座学の他、施設見学、グループワーキングなどを通じて、マテハンシステム管理士1種取得を目指します。
短期集中講座		本講座前期コースのエッセンスを短期集中で学びます。東京地区、大阪地区各1回開催します。修了者は管理士補の資格(2種受験資格)を取得できます。

### 【賛助会員】

#### Gaussy 株式会社



倉庫ロボットによる自動化支援

当社が提供する倉庫ロボットサービス「Roboware (ロボウェア)」は、設計・導入から運用・保守まで、お客様の課題解決に常に伴走する倉庫ロボットパートナーです。誰でも簡単にロボットを使って、倉庫運営ができる世界を目指しています。

住所：〒105-0012 東京都港区芝大門 2-1-16  
+SHIFT SHIBADAIMON 8 階  
公式サイト：<https://roboware.ai/>

#### ユアサ商事株式会社



ピッキング用自動搬送システム「ツインピック」

ユアサ商事は「ものづくり」「すまいづくり」「まちづくり」「環境づくり」を支える1666年創業の複合専門商社グループです。倉庫の保管効率向上とピッキング作業の負担軽減を実現する「ツインピック」の開発を行うなど、物流課題の解決にも貢献します。

住所：東京都千代田区神田美土代町 7 番地  
電話番号：03-6369-1999  
公式サイト：<https://www.yuasa.co.jp/>

#### 株式会社 ROMS



NFC (Nano Fulfillment Center)

当社は自動倉庫やロボットピッキングを自社で企画・設計・開発している2019年創業の会社です。

今まで自動化を見送られてたお客様にも導入頂けるように、従来より小型で使い易いソリューションの開発を行い、自動化の普及に寄与するとともに社会課題の解決に貢献します。

住所：東京都品川区東五反田二丁目 5 番 2 号  
電話：03-6417-3633  
公式サイト：<https://roms.inc/>



- ・テーマ：持続可能な道、物流の明日を育む
- ・目的：内外の最新物流機器・システム・情報等のソフトとハードを一堂に結集し、交易振興・技術の向上・情報の提供・人的交流等を促進することを目的とする。
- ・会期：2024年9月10日(火)～13日(金)の4日間 10:00～17:00
- ・会場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東1～8ホール
- ・主催：(一社)日本産業機械工業会、(一社)日本産業車両協会、(一社)日本パレット協会、(一社)日本物流システム機器協会、(一社)日本運搬車両協会、(一社)日本能率協会、(公社)日本ロジスティクスシステム協会
- ・協賛：関連40団体(予定)
- ・開催規模：532社・団体 / 3,220小間(共同出展含む)
- ・公式HP：<https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/lft/index.htm>

### 編集後記

■お蔭さまで第13号を発行することができました。事務局や編集チームの方々に深く感謝申し上げます。■モーレツな暑さが続いています。全国各地で猛暑日が記録され、熱中症警戒アラートの発表を聞かない日はないほどです。皆さまくれぐれもお気を付けください。■さて、本誌が配布される頃はパリオリンピックも中盤でしょうか。すでにくつろぎの競技でメダルを獲得しているかと思えます。直前の昨日今日は日本選手のバリ入りの報道が相次いでいます。メダルを期待できる競技に限らず、選手一人ひとりが悔いなく力を出し切り輝けることを願っています。がんばれ！ニッポン(N)

### 中小企業省力化投資補助事業「製品審査」実施中！

#### 中小機構「中小企業省力化投資補助事業」個別製品登録申請に係る証明書を発行します

当協会では、「中小企業省力化投資補助事業」の「マテハン機器」に関する製品の登録申請に関し、当協会が、中小企業省力化投資補助事業事務局より承認を受けた「製品カテゴリ」に適合する製品であり、且つ「省力化」「省人化」の基準を満たすか否かの確認・審査を行い、適格と判断された製品について「証明書」を発行いたします。

#### 「中小企業省力化投資補助金」について

〈事業目的〉  
中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするため、人手不足に悩む中小企業等に対して、IoT、ロボット等の人手不足解消に効果がある汎用製品を導入するための事業費等の経費の一部を補助することにより、簡易で即効性がある省力化投資を促進し、中小企業等の付加価値額や生産性向上を図るとともに、賃上げにつなげることを目的としています。  
該当する「製品カテゴリ」に対する製品登録審査申請をお待ちしております！  
詳しくは、当協会ホームページ「お知らせ」欄をご覧ください。  
JIMH公式HP：<https://www.jimh.or.jp/>

#### 一般社団法人日本物流システム機器協会

広報誌「JIMHニュース」第13号

2024年7月31日発行

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-3-2

スギコビル 2 階

TEL 03-6222-2001 FAX 03-6222-2005

<https://www.jimh.or.jp/>

